

第34回 江戸川区廃棄物減量等推進審議会 議事録

開催日 平成23年6月24日(金)

会場 グリーンパレス 5階 常盤

報告事項 (1) 東日本大震災に伴う災害廃棄物処理支援(仙台市派遣)について
(2) 古着・古布リサイクル移動回収について
(3) 家庭ごみ組成分析調査の結果について
(4) 平成23年度プラスチック製容器包装ベール品質調査結果について

江戸川区廃棄物減量等推進審議会事務局
(江戸川区環境部清掃課)

【事務局（後藤課長）】

皆さん、おはようございます。定刻より少々前でございますが、皆さん、おそろいでございますので、始めさせていただきます。

それでは、会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。まず、資料1といたしまして、「江戸川区廃棄物減量等推進審議会委員名簿」でございます。資料2といたしまして、「東日本大震災に伴う災害廃棄物処理支援報告書」でございます。資料3といたしまして、「古着・古布リサイクル移動回収実績」でございます。資料4といたしまして、「江戸川区家庭ごみ組成分析調査報告書」でございます。資料5「平成23年度プラスチック製容器包装ペール品質調査結果」でございます。参考資料といたしまして、前回の江戸川区廃棄物減量等推進審議会議事録、3Rハンドブック、3Rお助け店舗情報をおつけしてございます。

資料はお手元のほうにございますでしょうか。

続きまして、新たに委員になられた方をご紹介します。生活振興環境委員会委員長になられました伊藤照子議員でございます。

【伊藤委員】

どうぞよろしくお願いたします。（拍手）

【事務局（後藤課長）】

同じく同委員会副委員長の田中寿一議員でございます。

【田中委員】

よろしくお願いたします。（拍手）

【事務局（後藤課長）】

申しおくれましたが、本日、司会を務めさせていただきますが、本年度より清掃課長を拝命いたしました後藤でございます。小島にかわりまして、今年度、清掃課長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

新たに清掃課庶務係長に就任いたしました目黒でございます。

それでは、続きまして、審議前に環境部長小林よりごあいさつ申し上げます。

【事務局（小林部長）】

皆様、おはようございます。環境部長の小林でございます。

本年度、第1回目でございます。今年もひとつよろしくお願したいと思っております。

ご案内のとおり、東日本の大震災ということで、さまざまな形で、まだまだ被災地のほうは、復興という部分ではこれからだということだと思っております。

私も江戸川区の中でも、被災地の皆さんを何とか支援したいということで、地域の皆様方から浄財が集まりまして、実は全体で3億5,000万円という金額になりました。これは東北3県、あるいはお隣の浦安市に、お役立ていただくということで、地域の皆さんにはご理解、ご協力いただいてほんとうにありがたいなと思っております。

後ほど、清掃課長のほうからも報告をさせていただきますが、被災地への支援という

ことで、清掃に関しましては、特別区、東京都、また東環保の皆様、東廃協の皆様といった民間の方々と協力して、実は仙台市のほうに災害廃棄物の処理でいち早く現地に入りまして、皆様方のご支援をしたというところでございます。

また、私どもの職員がさまざまな復興支援事務ということで、現在も気仙沼市のほうに行っております。今まで200人以上の職員が行っております。また近隣の浦安市についてもかなり被災をされていまして、土木の職員、あるいは建築の職員、技術系を中心に、これも現在もまだ行っています。ということで、まだまだ人的な支援についてもできる限りの支援をしていきたいと、このような状況でございます。

また、今、節電ということで、今日は皆さん、ご不便をおかけしますが、照明を一部消させていただいております。江戸川区としては、各施設20%以上の節電を目指すということで今やっておりますし、地域の皆様方にも、なるべく国が言っております15%のご協力ということでお願いしているところでございます。

また、最近、放射能のお話が出ておりまして、先ほど東京都が、都内100カ所、江戸川区区内においても4カ所ほど測定をしまして、この結果からは特に健康に云々ということではございませんが、江戸川区としては引き続き区内のもう少し詳細な調査をするということで、来週以降、独自の測定も予定しておりまして、いろいろな形で震災後の対応をしているという状況でございます。

直接、廃棄物に関係のない話もさせていただいたのですが、今日は古着・古布リサイクルをはじめ報告事項中心ということでございますが、よろしくご審議のほどをお願いして、ごあいさつとさせていただきたいと思っております。

【事務局（後藤課長）】

ここからの議事進行を岡島会長さん、よろしく願いいたします。

【岡島会長】

それでは、ただいまから第34回江戸川区廃棄物減量等推進審議会を開会いたします。

今日は4点の報告事項で、審議はございません。ですので、皆さんの意見交換のような形の会になろうかと思っております。会議のほうも比較的省エネでやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず報告事項で、1点目、東日本大震災に伴う災害廃棄物処理支援について、事務局のほうからご報告をお願いいたします。

【事務局（後藤課長）】

今、ご案内ございました東日本大震災に伴う災害廃棄物処理支援についてご報告をさせていただきます。

ただいま部長のあいさつにもございましたように、江戸川区からは清掃、あるいは建築、保健師、事務と、かなり幅広い、また継続的な支援を行っているところでございます。4月から5月にかけて支援を行ってまいりました清掃の災害支援の報告をさせていただきます。

最初にパネルをご覧いただきたいと思います。こちらが宮城県の地図でございます。ちょっとわかりにくいのでありますけれども、宮城県の仙台駅でございます。こちらが太平洋です。ここに仙台東部道路という、首都高速のような橋げたの高速道路ではなくて、法面のある高速道路となります。この高速道路が北から南にずっと走っておりまして、津波が太平洋から押し寄せたという状況でございます。結果的には、この東部道路が防波堤のような形になりまして、東部道路の東側と西側で災害の様子が全く違っていたという状況でした。

私ども清掃の職員が作業を行ったのは、主に東部道路の東側の部分でございます。こちらには東環保、ほかの23区の部隊もあわせて、一次隊、二次隊、三次隊で100台を超える清掃車、300人規模の職員によって収集作業を行ったという状況でございます。

海から大体1.5キロから2キロぐらいのところは、かなり被害を多く受けております。例えば、ガソリンスタンドなどでは、鉄骨も含めてほぼ壊滅状態。小学校については、1階部分が完全に抜けてしまうという状況です。

付近は水田が広がっておりますので、流れ着いた瓦礫が一面に広がるという状況でございます。

先ほど地図をご覧いただきましたけれども、我々の作業は、海から2.5キロほど離れた、まだ家が残っている、そういった、庭に流れ着いた瓦礫の処理を行うという作業を行いました。つまり、こういった瓦礫が自宅の庭にどんどん流れ込んできて、どうしてもしょうがなくなると。これを撤去するという作業を中心に行ったわけでございます。

これは、ようやく瓦礫を撤去して道があいた状況でございます。我々が行きましてのが4月22日でございますので、震災から1カ月とちょっとたったあたりでございますけれども、まだまだ道路については完全に通っているわけではなくて、日々、開通状況が広がっていくという状況でした。我々が行っているときも、午前中は通れなかった道路が、午後、通れるようになるといったような復旧作業がまさに続いている状況です。ちなみに、このあたりは完全に停電をしておりますので、信号等については警察官の手旗による誘導によって車を案内されるという状況です。

これが我々の作業の様子です。このように、庭にはご家庭の中にあつた応接セットですとか、自転車、柱、この辺は花卉の栽培も盛んなようで、そういった花の入った段ボールですとか、ありとあらゆるものが家の中に、自分の庭の中に流れ着くと。それを収集作業の職員が、プレス車を持ち込んで、その中にどんどん積み込むという作業でございます。

積み込んだ収集物につきましては、市内の何方所かに分かれて置いてあります仮置き場のほうに運びまして、こちらで一時的に仮置くとしたようなことを行っております。ちょっと高さがわかりにくいんですけども、おそらく5メートルほどの高さに積み上げられた瓦礫でございます。

仙台市のほうでは、かなり分別がはっきりしておりまして、燃やせるものと燃やせな

いものと分けて収集をするということを行っておりましたので、今後、この廃棄物をどう処理するかということにつきましても、比較的スムーズな形で処分がされるのではないかと、勝手に推測をしているところでございます。

今、様子をご覧いただきましたけれども、もう一度、資料のほうに遡りまして説明をさせていただきます。派遣期間については4月17日から5月7日、一次、二次、三次隊という形で分かれて派遣をさせていただきました。それぞれ1週間ずつでございます。江戸川区からは、運転職員1名、収集職員2名、小型プレス車1台を、一、二、三次隊とそれぞれ派遣をさせていただいております。派遣区域につきましては、今、地図でご覧いただきましたが、あのあたりがちょうど仙台市の若林区というエリアになります。派遣規模につきましては、こちらにございますとおりでございます。

なお、作業状況についてですが、仙台市の想定していた作業能率よりもかなり速いスピードで私ども特別区の部隊が片づけた関係もありまして、そのあたりについては非常に評価をいただいたところでございます。

なお、今後のお話でございますが、もちろん要請があればすぐ派遣ができる態勢を特別区、東京都でとってございますけれども、今のところ具体的な要請が来てございませんので、またそのあたりについては、要請があり次第、派遣をさせていただくといったようなところでございます。

ちなみに、先ほどの瓦礫の処理でございますけれども、今後、福島県、宮城県、岩手県にはかなり多くの瓦礫や廃棄物がございまして、ただ、福島については、放射能に汚染された瓦礫も多く含んでいるところから、主には岩手県、宮城県の廃棄物については今後、東京都を通して、各地方自治体に処理の要請が来ることが予想されております。そのときには、しかるべき手続を経て対処をしてみたい、このように考えてございます。

大変雑駁でございますけれども、東日本大震災に伴う災害廃棄物の支援処理についてのご説明は以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。ご苦労様でした。

この中にも現地に行った方もいらっしゃると思います。次回は、このような報告される時は、パワーポイント等で行っていただくといいですね。せっかく見せていただいたものが見えないので、よろしく願います。

今の地震に関して、清掃のほうから応援が行ったということですが、何か感想なり、ご意見なり、ある方がいらっしゃいましたらどうぞ。

織副会長は、行かれたそうですね。

【織副会長】

私は、学生を連れて3泊4日で岩手県の大槌のほうに行きました。多分、被害の最北だと思えますが、宮城県と比べるとかなりレベルが違うというか、手が入っていないと

いう形です。それが結構一番きつかったかなと思うのですけれども、私どもがやったのは、個人のお宅の土砂をとるという作業です。17人で行って、それこそ朝6時に着いたので丸2日やったのですけれども、土砂が取り切れないという状態でした。

一番実は気になったのは、それを処分場に持っていったのですけれども、不法投棄の現場とほぼ類似したような形でした。岩手県のほうではまだ分別に至らず、とりあえずという形なので、自然発火等が怖いなと感じました。先程の高さの話がありましたが、かなり積み上げていて、自動車はガソリンを抜かないでそのまま積み上げている状態なので、個人的には自然発火が怖いかなと、今、印象は持っています。

学生たちと話した結果としては、私たちがやっけてもらちが明かないと、やるのが嫌ってことではなくて、正直、こういうことをちまちまやっけても、ほんとうにもうらちが明かないなという形が、少なくとも岩手県に関してはしました。もっと国全体で、大きなゼネコンを入れてやっけていかないと、もう時間とのほんとうに闘いだという印象を受けました。

以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。

私も何回か民間のNGO団体にも行ってきたのですけれども、今、織副会長のおっしゃったようなことと同じですが、やはり3年ぐらいかかりそうですね。原発はもっとかかるかわかりませんが、かなり長期戦になりそうですね。特に子供たちが心配ですね。体育館や運動場は全部占拠されているので、遊ぶところがなくて、親は忙しいですし、子供のケアも、小学生、中学生あたりは考えておかないといけないかもしれない、そのような状況でした。

ただし、ボランティアは幾らでも必要な状況ですね。ただ、ボランティアの整理ができないということなので、これは民間の方がはるかにうまく対応します。行政はうまく機能していませんでしたね。本当に混乱していました。

江戸川区も、地震が起きた場合の区役所の体制を整えていかなければなりませんよね。例えば、区役所の庁舎が壊れたりしたらどうするのか。実際、岩手県や宮城県はそのような状況になってしまいました。その時、役所は何もできなかったですね。江戸川区はそうじゃないように整えていただきたいですね。

陸前高田や南三陸では、市長さんがテレビに出て助けてくれと言っているのですけど、その実の行政は全く機能していないのですね。もうほんとうに嫌になるくらい、民間の、普通の漁師の方が仕切ったり、農家の人が仕切ったりして動いているのです。あの辺は反面教師として、ほんとうに考えたらいいかなとつくづく思いました。

いいところもあります。気仙沼はすごくうまくいっているようです。行政のリーダーによるのでしょうかけれども、大分差があるということを感じました。

【事務局（小林部長）】

実は清掃の話ということで、後藤課長のほうがその話をしたのですが、今まで多分 250 人ぐらい行っていると思うんですが、後藤課長そのものも、清掃ということではなくて、向こうのほんとうにお手伝いということで 3 週間行っています。江戸川区として、1 週間で交代ということではなくて、引き続きずっと詰めてやるようなやり方でやって、気仙沼からは、他の自治体と比べて江戸川区のやり方は非常に助かるということを言われています。

【岡島会長】

私が言っているのは、向こうを助けるのもそうだし、勉強ですね。特に若い世代の職員の方に行ってもらって、いつあるかわからないけれども、10 年ぐらいのスパンでその後の方々も活躍しなくてはいけないわけです。そういうことを備えておいたらいいかなと思います。

すみません。それでは、次に移りましょう。古着・古布リサイクルの移動回収につきまして、ご報告をお願いいたします。

【事務局（灰野係長）】

それでは、資料 3 の古着・古布リサイクル移動回収について、現況の報告をさせていただきますと思います。

この回収の仕組みにつきましては、新規事業ということで、4 月から実施しているところでございます。事業の概要としましては、毎月第 1 から第 4 の火曜日と、第 2 と第 4 の土曜日、各区内の 18 箇所の施設に、古着・古布を区民の方に持ち寄っていただくという回収方法で実施してございます。

回収された衣類につきましては、民間施設のほうで手選別を行いまして、中古衣料にしたり、工業用雑巾にしたり、反毛ということで、繊維をほぐして繊維原料にするというようなことで再利用しているところでございます。

現在の状況としましては、計画としては年間 100 トン、1 回当たり 1.5 トンを見込んでいたところではございますが、下の表にございますように、回収量、4 月の実績と 5 月の実績が書いてございます。1 回当たりが、上から 4.5 トン、4.1 トンというように、3 倍から 4 倍ぐらいの量が集まっている状況でございます。

次のページをご覧くださいまして、利用者の声としまして、燃やすごみとして捨てるのはもったいないけれども、リサイクルされるならありがたいということが多く聞こえております。また、回収場所については、もう少し増やしてほしいという意見もございまして、今後、回収量の推移を見守りながら、区民が利用しやすい回収の仕組みをつくっていったらなと思っております。

古着・古布につきましては以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。今、断捨離がはやっているから、出したい人が多いのでは

ないですか。

どうでしょう。この件につきまして、特に女性の委員の方などもいろいろご意見があるのではないですか。どうぞ、小野瀬委員。

【小野瀬委員】

これは、やる最初の4月のときに私、申し上げたこともあるのですが、これを始めるに当たって、実際に4月、5月とやってみて、行政側のほうで、こんなものなのか、それともこんなに多くあるのかという感じ、どういう形にとらえていますか。

4月が6.6トンの5月が6.5トンというふうになっておりますが、それが想定内なのか、想定外なのかということをお聞かせ願えたらと思っております。

【事務局（灰野係長）】

周辺地域の回収実績を見込みながら、江戸川区のほうでも年間100トン、1日1回当たり1.5トンという推計を出していたところでございます。各施設において、それを3倍、4倍、場所によっては6倍、7倍超える量が集まっている状況がございます。

これにつきまして、当初2トン車1台、作業員1人ということで対応を図っていたところですが、回収量がかなり多い量が集まってきているものですから、車両につきましても、4トン車を2台、作業員につきましても4人まで増員を図りまして、対応に当たっているところでございます。

震災の寄附だとか、衣替えの時期のシーズンも重なっておりますが、かなり手ごたえを感じているところでございます。

【岡島会長】

予想以上だったということですね。

荒川委員、何かありますか。

【荒川委員】

先ほど回収場所を増やすと言っていましたけれども、私のほうで見たところで、3箇所だけ回収されていないエリアがあります。これは大杉、船堀、東小松川南です。大杉は大杉会館という会館がありますよね。そこで回収したらいかがですか。船堀はどこか場所をうまく考えて回収する場所に指定していただければ。東小松川南町会は、町会の会館があります。その会館を利用していただいたらいいかなと、検討してみてください。

【岡島会長】

どうぞ。

【事務局（後藤課長）】

ご意見ありがとうございます。今、特に大杉、東小松川、船堀ということでご案内をいただいているところでございますが、そのほかにも西小岩近辺ですとか、東葛西のほうですとか、篠崎エリアですとか、実際に18箇所、区内満遍なくというようなことにはならなかったのですけれども、なるべく均等になるように回収場所を設定させていただいたところでございますが、実際にふたをあけてみますと、もう少し細かいエリアで回

収していただいたほうがいいのではないかという要望も実際のところ、来てございますので、これにつきましては、実際に2トントラックとか4トントラックが置けるスペースも含めて条件としてございますものですから、そのあたりを少し検討させていただきまして、今後、区民の皆さんが持ってきやすいよりよい環境を整えてまいりたい、そのように考えております。

【岡島会長】

区役所が考えた以上にみんなの要望が大きかったということですね。次からは皆さんの要望に従って、もっといっぱい場所を増やせばいいということだと思います。よろしく願いいたします。

他はいかがでしょう。松川委員、何かありますか。

【松川委員】

今日の会議に出るのに、近所の周りの人に何人が伺って来ましたら、やはりここに書いてありますように、利用者の声のところにあります大体こんな感じです。何よりも、着物があつたりするのですが、ごみにしてしまうのは、やっぱり、高いお金を出して買ったものは嫌だという観念で、今までほんとうにしまい込んでいたのが、何かに利用していただける、リサイクルされるという安心感で、どんどん出していますという、そんな声がありました。それで、目的が達せられるのかなという感じがしました。

それから、ごみダイエットニュースを送っていただいた中にあるのですが、私どもの団体としては、地域のバザー、フリーマーケットに出すということを書いていただいたのがすごくうれしいなと感じました。必ずバザーはやりますので、全部出されても困るなというのがありまして、資金になっているものですから。これはとてもありがたいなと思いました。この最後の黄色いところに書いてあるこれ、すばらしいですね。古布のリサイクルということで、そんな感想です。

【岡島会長】

ありがとうございました。

他に、いかがでしょう。今日は女性の発言をいろいろいただければと思います。

【斎藤委員】

すごく成果が上がっていてすばらしいなという感想を持ちました。それと、この古布の回収に伴って一般ごみの減量をされていると思いますが、そういった結果も一緒に表示していただけるとすごくわかりやすいなと思います。それによって、やはり経費も安くなっていると思いますので、そういった点を明確化していただけるとありがたいと思います。

【岡島会長】

梁瀬委員、どうぞ。

【梁瀬委員】

私、4月に第1回目のときに参りました。11時からということで11時ちょっと前につ

いたのですが、もうトラックに山積みになっており、下にもいっぱい置いてあったような状況で、皆さん、やはり待っていたのだという感じを受けました。

私も両手にたくさん、バスに乗るには乗客に迷惑になるし、歩きながら、かなり大変でしたけれども、これがもっと近くにあったらいいなと思ひまして、まずは夫のものから整理してまいりました。私のものは次にしようと思ひついて、やはりたんすの着物ですが、着てくれる人とか、何かに利用してくれる人になるべくあげるようにしております。

2回目の5月は大変だったのだという話をある区議会議員さんにしましたところ、明るい社会をつくる会とかという会があるそうで、月に2回は家にとりに来るからいいわよということで、運んでくださいました。

近くにあったらほんとうにしたいなと思ひましたし、結構知らない人もいるので、あちこちに声をかけさせていただきました。皆さん、たくさんきつと家に余っているものがあるということでしたので、利用したらいいなと思ひました。

以上です。

【岡島会長】

ありがとうございます。

嶋委員、どうぞ。

【嶋委員】

この計画、最初にご披露があったときに、第2火曜日の清新町コミュニティ会館の駐車場というのがありまして、実は駐車場が相当離れたところにあつて、ちょっと心配になったので、第1回目のとき、9時からですけれども、もし迷っている人がいたらいけないと思つて早めに行きました。そうしたところ、コミュニティ会館の前と回収場所の駐車場に清掃課の方がおられ、フル出勤でやっておられたので、ものすごく力が入っているなと感じました。

我が家としても、だれも持ってこないのでは申しわけないと思つて相当持つていったのですけれども、それ以上にたくさん方が台車や自転車とかで運んでこられる方がおられて、非常に心強く感じました。

第2回が、今度、また落ち込んだらと思つて、また率先して行つたら、同じく清掃課の方の対応していました。また、持つてこられた方も非常に多いので安心しました。

第3回目もそれなりに、6月もフォローしました。

あと、毎月、うちの団地のほうでお便りが出ているものですから、一応、古着・古布の回収が始まるよということと、前回、やったけれども、今回は、5月号、6月号という形でPRはしようと思つております。

そういうことで、逆にこちらから言うと、ほんとうに清掃課の方、ご苦労さまでしたと申し上げたいと思ひます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

伊藤委員、よろしくお願いします。

【伊藤委員】

今回、生活振興環境委員会の委員長を拝しました伊藤照子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この古着・古布リサイクル、私も地元の主婦の方からこういったことを江戸川区はやらないのですか、他の自治体ではやっているんですけどという声を前々からいただいていたものですから、今回、4月からスタートしたのは大変喜ばしいことだと思っております。

今回、この間の委員会でもこの報告があったのですが、大変たくさんの方が古着・古布、持ち込んでいただいて、この間の委員会でも被災地へは行かないのですかというお声もあつたりもしたのですけれども、やはりルート、なるべく経費がかからないようにということで、一括で頼んでいるということで、被災地に直接行くことはないのですけれども、いろいろな意味で全国的にやっていくことが、いろいろなごみ減量につながるのではないかなと思っています。待っていたという感じでいろいろなものを出される方がいるので、それをまた選別すると大変な労力がかかるわけで、こういったことでやらしていただいているかなと思います。

これから多くの方にこれを使っていただいて、やはり江戸川区のごみ減量につながっていけばいいかなと思って、私もいろいろなところでお話しするときに、こういったことを今、やっていますよということで、江戸川区のPRをさせていただいているところです。これからまた、これが継続的に1年間たってどうなるかというのも、また来年になって集計すると、楽しみでもあり、これからの参考になるのではないかなと思っています。

よろしくお願いいたします。

【岡島会長】

ありがとうございました。

被災地では、女性の夏物が無く、特に女子高校生ぐらいが欲しいらしいようです。今、うちの大学で、ちょうど女子大生だから、段ボール何個か、洗ってきれいに畳んで詰めて送ってあげたところです。

例えば、そういう細かい要望がいっぱいあると思います。そういうのを、今、せっかく区役所がこういうことをやっているのだから、そういうふうによく欲しいところにまわるといいのですけれども、それにはおそらく区役所では無理だと思います。

これから先の話になりますけれども、NPO、NGOとか、そういう方々のお力を借りて、どういうふうにすればいいというのを、少しでも有効利用のほうにいくといいと思います。

どうしても、えどがわエコセンターもあるのですが、江戸川区の中にそういういろい

ろな細かいことを一生懸命やるようなNPOみたいなものが、今度、寄附税制もすごく、税制も優遇されることになったので、ここにいらっしゃる方、1人が1個のNPOをつくっていただきたいくらいで、これからの世の中、区役所だけで物事をやろうといてもとても難しい面もあるし、特にこういうものはNPOのような方々の協力を得れば、いいのではないかと思います。

【小野瀬委員】

今まだ避難所では冬物で生活している状態です。避難所で毛布を敷いたり、かぶったりして寝ているという生活が続き、おそらく簡単には解決しないと思います。今、先生がおっしゃるとおり、やはり夏の時期になってくると、特に女の人は夏物というのは必要不可欠でしょうね。やはりそういうものが被災地のほうに届けられるようにするには、どうしたらいいのだろうかということを考えるのも必要かなと感じます。

【岡島会長】

他にいかがでしょう。

【織副会長】

利用者の声の中にもありますが、どのようにリサイクルされているのか教えてほしいというところを、わかり次第、区報などでもいいので、フィードバックしていかないとなかなか続かないので、頑張った結果がこのようになりまして、きちんと目に見える形で見せていただきたいですね。また、逆にこういうものが困りましたというのがあれば、多分、次のときにまた分別のところでは役に立つような何かがあると思うので、その辺をなるべく早くフィードバックしていただければと思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。

せっかくのヒット作戦ですねので、ぜひこれからも前向きにやっていただければと思います。

それでは、次の議題の家庭ごみの組成分析調査の結果についてお願いいたします。

【事務局（石川係長）】

それでは、お手元の資料の4をご覧くださいと思います。組成調査につきましては、平成20年に分別変更を行いまして、20年5月、21年11月、22年11月ということで、3年間続けてやっているものでございます。今回、ご報告させていただきますのは、昨年の11月に行ったものでございます。

資料の2枚目、一番下の5番の過去の調査との比較というところをご覧くださいと思います。まず、燃やすごみにつきましては、1番の可燃ごみ、いわゆる正しく分別をして出していただいているものということでございますけれども、前々回が84.2パーセント、前回は83.6パーセント、今回は85.4パーセントということで、3回のうちでは一番数字が高くなっておりますけれども、ほぼ横ばいという状況でございます。

その下、3番の紙類、びん・缶という、燃やすごみの中に含まれている資源になり得

るものです。こちらにつきましては、今回、13.3%ということで、3回のうちでは若干減少傾向にあるという結果になってございます。

次に容器包装プラスチックについてですが、1番の正しく分別されて出されているものというものが、今回、77.8パーセントということで、過去2回の調査に比べまして、大幅に向上しているという結果になっております。また、2番、3番、いわゆる正しく分別していないというものにつきましては、前々回、前回と比べますと、確実に減少しているという結果になっております。

以上のように、容器包装プラスチックにつきましては、区民の皆様の中に、容器包装プラスチックというのはどういうものが含まれて、どういうふうに分ればよろしいのかということが、確実に浸透しつつあると言えるのではないかと思います。これまでさまざまな方法で周知、啓発を行ってまいりましたけれども、その成果が出ているのではないかと思います。

また逆に、燃やすごみの中に含まれている資源というものがまだまだ13パーセントもあるということでございますので、こちらの13パーセントを、燃やすごみではなくてこれは資源になりますということを、これからも区民の皆様はどういう形で周知、お知らせをしていったらいいのかということが今後の課題になるのではないかと思います。

今回の調査からは以上のような結果になっております。以上のとおりでございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

これは、数字が高いほうがいいのと、低いほうがいいのとあるわけですか。

【事務局（石川係長）】

そうです。

【岡島会長】

これにつきましていかがでしょう。阿部委員お願いします。

【阿部委員】

資料を見たときに私もちょっと混乱したのですが、今の説明でよくわかりました。流れとしては非常にうまくいっている。結構なことだと思います。

【岡島会長】

これはやっぱりいいことです。だから、あまり卑下しないで、きちんと着実に成果が上がっているという報告でいいと思います。強いて言うなら、今回、13.3パーセント、まだ資源ごみが埋まっているというご指摘がありましたけれども、その点を課題にすれば、今までの行政がやってきたこと、区民が協力していることがずっとうまくいっているわけです。大変すばらしいと思います。

どうぞ、嶋委員。

【嶋委員】

先ほど出た古着・古布の次の課題として申し上げたいのは、1の3の紙類、びん・缶

等と書いてあるのですけれども、びん・缶はほとんど、物理的にまざる機会はないのですけれども、紙類が多いのではないかと思います。以前、20パーセントぐらいが13パーセントまで良くなってきましたが、前もこの場で発言したことがあるのですけれども、雑紙という形での回収があまり徹底しておりません。古着・古布の次のテーマとして、もっと雑紙をきちんと出しましょうといったら、なおこの13パーセントがさらに下がるのかなと思います。

【岡島会長】

そうですね。おっしゃるとおり、組成をよく分析すれば、燃えるごみにびん・缶を入れる人は、基本的にいないですよ。だから、雑紙が多いのではないかと思いますから、雑紙対策というのをきちんとやれば、一気に10パーセントを切ったりしていくかもしれませんね。

貴重なご意見ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

それでは、次の容器包装プラスチックのほうに行きたいと思います。家庭ごみの後は、23年度のプラスチック製容器包装ベール品質調査結果、ご報告お願いいたします。

【事務局（灰野係長）】

資料5のベール品質調査結果でございます。この調査につきましては毎年行っているのですけれども、容器包装プラスチックの分別されたものを中間処理施設でベールというものにするわけですが、その品質の向上がいかに関われているかということで、毎年、行っております。

4月13日、江戸川区のベールが調査をされまして、私どものほうで立ち会いをさせていただいております。これの調査結果としては表にございます。主な調査項目といたしましては、汚れの状態、破袋度、収集袋及びレジ袋の中にもものが入っている状態がベールの中にあるかないか、いかに袋が破られて中身が出ているかというようなことを破袋度ということで調査をいたします。それと、容器包装比率。容器包装比率ということで、それ以外の異物がどのぐらい入っているか。それと、禁忌品ということで、入ってはいけないものがどのぐらい入っているか。この4項目につきまして、調査をいたします。

結果としましては、評価判定にございますように、汚れはございませんでした。破袋度につきましては、ほとんど破袋されているということで、Aという評価をいただいております。容器包装比率につきましては、98.21パーセントとかなり高い異物のない状態ということで、Aランクということ。禁忌品につきましても、危険物だとか、医療廃棄物の混入がなかったということで、Aランクということで、最上位のランクということになります。

下の表にございますのは過去4年間の実績で、Aランクを維持しつつ、現状であります。Aランクというのは、容器包装リサイクル法の中で、再商品化合理化拠出金の制度

というのがございまして、このAランクの中の容器包装比率が95パーセント以上の対象の自治体に配分があるという関係がございまして。23年度は、容器包装比率はAランクでしたので、来年度、この配分が江戸川区にある予定でございまして。

次のページにありますのが写真でございまして、どのような状況でやっているかということでもあります。ベールというのは、1つおおむね200キロでございまして。このベールを3つ選びまして、3つの中から各20キロずつぐらいをとりまして、その一部を広げて、中にどのぐらい異物があるかという調査を行うものでございまして。

ベール品質調査については以上でございまして。

【岡島会長】

ありがとうございました。

プラスチックベールにつきまして、今回、オールAでよかったと思いますけれども、何かご意見ありませんでしょうか。

5,326万円の配当金があるのですよね。

【事務局（灰野係長）】

これは22年度の実績ということではございまして。

【岡島会長】

大したものですね。一生懸命やればこういう配分があるのですね。

それでは、今日のすべての議題で結構ですので、ベールの品質も含めてご意見をいただければと思います。

田中委員から、お願いします。

【田中委員】

改めまして、生活振興環境委員会の副委員長に就任させていただきました田中寿一と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

先ほど委員の方からお話がありました家庭ごみの組成分析調査の結果の中で、13.3パーセントをいかに低減させていくか。この3回の調査結果を見ても、14.5パーセント、14.7パーセント、今回は13.3パーセントということで、成果がひとつあらわれているのかなと思います。1ページ目の結局、紙類、先ほどご意見がありましたように、これが11.4パーセントということで、容器包装プラスチックは1.5パーセント、その他資源は0.4パーセントということで、これを低減させていくというのはなかなか非常に難しい課題なのかなと思いますが、やはり11.4パーセントという部分で、まだまだ試行錯誤を重ねて、成果を重ねていくことができる部分であると私自身も思います。

ぜひ、これは、区民の方の協力なくしてはよりリサイクルを進めてごみの減量化を進めるということではできない中であって、財政的にもごみの処理経費を減らしていくということで、先ほどの古着・古布との関連でもありますけれども、ごみを減量することによって、どのぐらい財政的にも江戸川区も成果が出たということが、もっと区民の方に目に見える形でPRしていくことも、またひとつ数値を減らしていく上で重要なことな

のかなと、そのように思いましたので、広報という部分と、周知の徹底という部分と、両面でこれからも頑張っていたいただければありがたいと思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。

それでは、杉本委員、お願いします。

【杉本委員】

皆さん、こんにちは。古着・古布のリサイクル事業の成果は出ているのですか。

【事務局（灰野係長）】

まだ回収して日が浅いものですから。ただ、集まった資源については、半分ぐらいは中古衣料として選別した後、主に海外のほうで。あとは、工業用のウエスであったり、繊維としてほどこいて、また別のパンチカーペットにしたりというような再生品にすることで、事業者のほうと連絡をしております。

【杉本委員】

ありがとうございます。これは、再処理するのにそんなに費用はかからないのですか。

【岡島会長】

費用、経費は、いかがですか。

【事務局（灰野係長）】

私どものほうの支出としては、車両の手配の経費ということになります。事業者のほうは、人手をかけて手で選別し、付加価値を生んで市場に出しております。

【杉本委員】

ありがとうございます。

江戸川区は自慢していい部分があるのではないのかな。これはやっぱり区民がリサイクルに対する問題に取り組んできたのだから。

【岡島会長】

昔はひどかったですよね。今は、ものすごくよくなっていますよね。そこは誇っていいと思う。

【杉本委員】

ほんとうにそう思います。

【岡島会長】

そうですよ。

【杉本委員】

ありがとうございます。町会の会長さん方を含めて、これはご苦労さんですねとほめてもらわないといけませんよね。

【岡島会長】

そのような報告する広報があってもいいですね。だめなところは、13パーセントを、11.4パーセントをもっとやろうというのは当然だけれども、それ以外に、この数年間で

こう来ているんだよ、やればできるじゃないか、みんなでやろうよというような、そういう意味のことを、やっぱり広報したほうがいいと思います。

では、松本委員、お願いいたします。

【松本委員】

まず、雑感的といいますか、江戸川区民約 68 万人が住んでいるわけですが、ごみ処理につきましては、自画自賛とってはおかしいのですけれども、だんだんよくなってきていると思います。まだまだ足りないところは十分ありますけれども、官の努力にもよります、うまくいっているのではないかなと思っております。

江戸川区は、ご案内のとおり遊水都市といいますか、田園都市、都市型都市的なところも十分にありまして、この3つのバランスが非常にうまくとれてきました。どこのセクションをとっても多少絵になる都市になってきましたので、住みがいがあるといえますか、当然、我々は次にバトンタッチしていくわけですが、いい方向に行っているのではなからうかと思っております。

話題が、具体的になりますけれども、最近、カラスが異常発生したと思いませんか。私どもの街区ですが、集められたごみをねらって、ものすごい数がいます。どこかでこんな風景を見たなと思っていたら、数十年前に見たアルフレッド・ヒッチコックの「鳥」ですか、あれを思い出しましてね。

もし、このままカラスが増えた場合には、駆除するというか、駆逐というんですか、そういう予定が区としてはあるのですか。

【岡島会長】

苦情のようなものは来ていますか。今、松本委員のような話は区のほうには届いていますか。

【事務局（後藤課長）】

特に区役所近辺のことで申し上げますと、ここ1週間、2週間ほどの話ですけれども、ちょうど子供が生まれまして、カラスが1年の中でも非常に気が立っている時期でございます。したがって、ごみに対してどうというよりは、子供を守るために少し鳴き声が荒くなるといったような話を聞いてございます。ただ、清掃事業の観点から申し上げますと、防鳥用のネット、カラスのごみの食い散らかしから防ぐためのネットの貸し出し等を行いながら、こういった散らかし防止に努めてまいりたい。

一方では、カラスも一応、鳥、野鳥の部類に入るものですから、やたらにとるということができにくい状況がございますので、そのあたりについては、環境部全体の中で、またいろいろ区民の皆さんのそういったお困りの部分について対応しているところでございます。

以上でございます。

【松本委員】

ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局（小林部長）】

今、課長がお話ししたとおりですが、駆除のお話でいいますと、もう10年近く前ですけども、東京都の石原知事が、ランニング中か何か、カラスにどうもつつかれたみたいで、非常にカラスを敵対視していたといううわさですけども、都が都立公園で駆除をやっていまして、今現在も、江戸川区内ですと篠崎公園ですね。そういう形で駆除をやっていまして、かなり減っているのは間違いないです。

【松本委員】

駆除の方法はどのようにしているのですか。

【事務局（小林部長）】

例えば篠崎公園の場合は、えさを置いておいて、そこにカラスが来たのをつかまえて、それを安楽死させるという形ですね。

【杉本委員】

巣をとるのはできないのですか。

【事務局（小林部長）】

巣をとるのはなかなか難しいです。区のほうで今、やっているのは、ひなが巣から落ちて落下物として収集しております。巣そのものを撤去ということで、それが危害を及ぼすとか、何か特別な事由があれば巣の撤去について一定の費用負担というのは、補助金という形で、区のほうでも支援をしております。

【松本委員】

そういう方法でやっているということですね。そうですか。わかりました。

【岡島会長】

どうぞ。

【松本委員】

これを私は申し上げたいと思うんですけども、福島第一原発の放射能漏れにつきましてはもう避けて通れないというか、大きな問題になってくると思いますし、今後の予測もなかなかできないのでありますが、いずれにいたしましても、放射線が私どもの生活空間の中になんか流れ出ているだろうという予測もされます。

例えばの話ですけども、今、千葉県のカボチャとか、いろいろ野菜が非常によくとれまして、いただきますが、あげるって言っても私どもの子供たちは持っていけないのです。自分たちはいいけれども、子供には、つまり私の孫には怖くて食べさせられないですね。

一体、今、生活している生活圏の中で放射線の漏れがどのくらいあるのかということについては、この間もNHKでディスカッションをやっていましたが、それぞれの専門家、医療関係、環境関係、賛否両論なのです。賛否とってはおかしいのですけれども、まず、あまり心配しなくていいという立場と、かなりこれは深刻な状況であるということ、あれだけ専門家が集まって結論が出ないということは、我々国民にとりまし

て非常に判断しにくい問題だとも思うのですが、あまりにもぼやかしすぎているところがあるのではないかと考えています。ですから、ある程度、国として、何らかの形で心配あるとかないとか、具体的な1つの線を出してもらいたいなと思います。

例えば、江戸川区の場合は何カ所かに放射線をはかる地域を設けまして、このぐらいのマイクロシーベルトの線が出ていますよというようなことを、今後、やるつもりがあるのか、ないのか。その辺もお聞かせください。

やはりその場所に住んでいるわけですから、具体的な数字を得ることは、生活の指針として今後、非常に参考になると思うし、どのぐらい心配していいのかどうかということについてもわかりませんので、その辺も専門家の方の意見というものを具体的に区民の皆さんに伝えてもらいたいなと思うし、また、行政側としては伝える義務があるのではないかと、そのように思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。

国全体の問題でもあるし、東京都もあるし、江戸川区もあるし、自分のところだけでなかなかうまくいえないとは思いますが、ただ、松本委員のご趣旨は、おそらく江戸川区が今、4カ所、言われたところをつくっているというけれども、江戸川区独自に、江戸川区民のためにもっといろいろな形で努力したらどうだと、そういうことです。

言われたことだけやるのではなくて、江戸川区だけは20カ所やってみようよとか、そういう努力をして、放射線に対する区民の不安に対する対応を、もうちょっと手厚くやってみたらどうかということなので、ご意見として、小林部長のほうから、区長とか部長会とか、そういうところでもお諮りいただければと思います。

それでは、牧野委員、お願いします。

【牧野委員】

資料4のところですが、図-1と図-2のところ、外袋の比率が下がってきて、容器廃プラが上がってきて、図-1のほうでは可燃物が上がってきて、大変いいことです。一袋当たりに皆さんがごみをいっぱい入れて、こういう数字になったのでしょうか。

【岡島会長】

それはどうですか、分析としては。

【事務局(石川係長)】

すみません。細かい分析はしていないのですが、皆さん、やはりごみを減らそうということで、なるべくごみになるようなものは除いてというふうに出している結果だと思っております。

【岡島会長】

ということは、この数字はパーセントだけど、絶対量が減っているということですか。

【事務局(石川係長)】

そういうことです。

【岡島会長】

その影響もあるのですね。

【事務局（石川係長）】

燃やすごみの中に、例えば袋だけ、ごみとして袋も入れてないというようなことも入っているのではないかと思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。続けてどうぞ。

【牧野委員】

すみません。古着がすごく好評で、結果が出てきたのですが、これを増やしていくに当たって、葛飾区との兼ね合いは大丈夫なんでしょうか。

【岡島会長】

それはどうですか。

【事務局（灰野係長）】

葛飾区のほうで、今年、入札をして別の事業者がとったという情報をいただいていますので、そこの関係は縁が切れております。

【岡島会長】

わかりました。ありがとうございます。

田口委員、どうぞ。

【田口委員】

容器包装については、家庭ですと燃えるごみのほうに捨ててしまうのが一番楽でいいという方がまだまだいらっしゃいます。さっと洗って、またそれを容器包装リサイクルのほうをできるだけ多く集めるということを考えたほうがいいかなと思います。

全体的な量から考えると、前はトン数をもっと出ていました。このところを見てみますと、だんだん減ってきています。幾ら景気が低迷してきても、もう少し集め方を考えていただければと思いました。

東日本大震災について、応援部隊で私どもの仲間が行ったわけですが、実際にテレビで見ているよりもっとひどいようです。写真が撮れない部分が大分ありまして、実際の生のほうがテレビの報道よりひどいということです。それと、作業するのに、ちょっとした怪我でも破傷風になってしまうということで、予防注射を打って行きました。ほこりがすごいらしく、肺炎とか、いろいろな問題が出てくるのではないかとということで、私どもの業界の座談会でそのような話が出ました。

10人ほど向こうに行ったわけですが、そのときに、第一次隊、第二次隊、第三次隊、それぞれのメンバーの人たちが、涙ぐみながら「大変な状態なんだよ」と言っていました。実際に行ってみて、これからどういうふうにしたらいいかということを考えるべきじゃないかなと思います。

携帯電話がそのときは全然通じなかったです。家族でも、どういうふうに逃げたらいいとか、どういう連絡の方法を考えたらいいとか、そういうことをそのとき、思いました。

【岡島会長】

それでは、全体を通じて、何か一言、言い忘れた、これだけ言っておきたいということがあれば、どうぞ。

【伊藤委員】

今、清掃の方たちが向こうに行ってきたお話が出ましたが、6月の区民ニュースの中に、東日本大震災の江戸川区の支援ということでまとめてあるニュースがあるのですが、その中でお話をされていたのが、おうちの中の瓦礫を片づけるときに一番すごく悲しかったというか心にきたのは、これをごみと判断していいのかどうかということだという話がありました。そのおうちの方にとっては大事な思い出の品だったりするのですが、もう泥まみれになっているものをごみにしていいのか、どうなのかというのを自分で判断することがすごく心が痛んだという話がニュースの中に載ってしまっていて、それをずっと見ますと、江戸川区の支援が、やってきたことがずっと載っているのがつくられているんです。

私も先日、会派で区の職員が行っている気仙沼に行ってきました、現地の様子を見てまいりました。もう大分日にちがたっていたので、冷凍倉庫から流されたお魚が腐っていて、町中が魚の腐ったにおいが充満しているという状況です。全部流されている陸前高田にも行ったのですが、そっちはもうきれいに瓦礫が片づけられていました。逆に気仙沼の港は地盤沈下もしていて、残っている建物があるので一気に片づけられないというのが、いろいろな状況をまた見てまいりました。そういった、清掃のほうでもやっているお姿がニュースにも載っていますので、ぜひ皆さん、見る機会があったら見ていただけたらと思います。

もう1つ、容器包装プラスチックのべールの話があったのですが、臨海町の江環保エコセンターがありますよね。あそこに私も行って視察してきましたが、そのとき、袋から出して中を選別している姿を見たときに、自分たちが出すときにいかにきれいに分けなきゃいけないのかなというのをほんとうに実感しました。選別している方たちとごみを出す自分たちのモラルというか、そういうのが一緒になってこのべール品質調査がAランクになっているというのを実感したということがあります。少したったので、またこの分別について意識の啓発を区民にしていく必要があるのではないかなと今、思っているところです。

以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。

最後、織副会長、お願いします。

【織副会長】

家庭ごみの組成の分別のところですが、先ほどから話が出ているように、非常に優秀だと思います。特に私が注目したのは、可燃ごみの中に容器プラスチックが 1.5 パーセントというのはかなりレベルが高いと思います。プラスチックの分別は非常に難しいので、かなり高いなと思いました。ベール品質もトリプルAということで、拠出金 5,000 万円ぐらい返ってくるというのは、区民の方にぜひこのことを強くアピールすべきだと思います。税収が下がっている中で、拠出金の形で 5,000 万円入ってくる。それもちょっと手間暇を各家庭でやれば、5,000 万円、レートは下がるかもしれないですが、5,000 万円がキープできるということを強くアピールすることはすごく重要なことなのではないかなと思いましたので、そこのところをぜひよろしくお願いいたします。

【岡島会長】

ありがとうございました。

それでは、一応、今日の議題を終わりとして、連絡事項等、事務局のほうからお願いいたします。

【事務局（後藤課長）】

それでは、連絡事項を 2 点、ご案内させていただきます。

まず、1 点目は、先ほど冒頭に参考資料ということでご案内申し上げましたが、第 33 回江戸川区廃棄物減量等推進審議会の議事録についてでございます。こちら、議事録の訂正等ございましたら、7 月 8 日金曜日までに、担当のごみ減量係までご連絡をいただければと思います。

次に 2 点目、次回の審議会の日程についてでございます。昨年度は一般廃棄物の基本計画の改定がございましたので、年間、回数重ねましたけれども、今年度、現在のところ、議案等ございませんので、次回の日程については未定でございます。次回、秋以降、開催をさせていただく予定をしておりますので、改めまして、日程調整をさせていただいた上でご案内申し上げたい。このように考えております。

連絡事項は以上でございます。

【岡島会長】

どうもありがとうございました。

それでは、今日はこれで終わりにしたいと思います。どうも皆さん、ありがとうございました。

了